

音モノ修理

8Tr MTR TASCAM DA-78HR CD PLAYER TEAC CDP-1260

日本メーカーの機材のほとんどには手を加える隙がない。回路、パーツ選択、構造などすべての面で煮詰められ完成されている。いつも思うのは「こんなに頑張って作って、いったい何台売れたんだろう」ということ。100万台など売れるわけがない。もしかすると千台にも届かず、数百台で終わる製品もあるはず。それでも人知を尽くすエンジニア諸氏には、仕事とは別の情熱を感じ

るを得ない。

だから私は機材が壊れない限り内部をいじらない。エンジニアが「これでいい」と言ったものを、「まだ改善点があるでしょ」と、オペアンプを換えてみるなどおこがましくてできない。

壊れたとなれば話は別で、オリジナルを最大限に尊重しながら開腹手術を試みる。あまり好きな仕事ではないけれど、必要ならやるのだ。



● DA-78HR のローバッテリー

ご存知、Hi8 テープを使う 8TrMTR。VHS テープの Adat と市場を二分した名機ではあったが「もうヒモの時代は古い」とばかり記憶媒体がメモリに変わって、あえなく沈没。いわば MTR 端境期の打ち上げ花火だった。しかし 24bit/48kHz の基本性能は今でも実用には充分だろう。

この子は 5 年前の引越して行方不明になり、最近「最後の荷物」を開梱したら出てきた。ということは、ここ 5 年間 MTR 録音をやっていなかったわけ。まあ、こんな片田舎では録るものも無いから当然ではあるけれど、この際、MTR 環境を作っておこうかと思いついてしまった。

電源を入れるとなんとなく正常そうな感じ。ただ、起動するたびに LoBattery の表示が出る。マニュアルでは修理に出せと書いてある。そんなに難しい状態なの？

全然難しくはなかった。ふたを開けてみたら基板付けの電池ホルダが、たぶんネコでもわかるように立っている。写真の黄色丸部分。このボタン電池は CR2032 で、電圧が極めて 0V まで低下していた。100 均で買ってきた新品と交換して、はい完了。表示は出なくなった。

メーカーにしてみれば、どこの馬の骨ともわからないユーザーに中をいじられるのはイヤだろうが、だからって、この程度のことで往復の送料をかけて引き取り修理に出させるのは、ちょっとなあ。技術料もタダってわけじゃなさそうだし。

それじゃ次はテープを回してみよう（順番が逆だ）と、どうでもいい Hi8 テープを入れてみた。ありゃ、こっちの方が重症だ。カセットは引き込む

むが、正しくローディングしない。どうもメカが下がりきらない様子。これでは 100 均の買い物が無駄になる。メーカーに問い合わせると、この手の故障は 1 万円～1.5 万円で治ることが多いという。

ということは、多分それほど難しい故障ではなく、ゴムベルトの緩みか何かだろう。自分で治すことに決めた。

もっとも、治したところで、また放置してローバッテリーになる公算は極めて大だが。



● CD-P1260 の音とび・音切れ

数年前に買った TEAC の当時最安値 CD プレーヤ。急遽必要になり、とりあえず音が出ればいい、で買ったのもだが案に相違してなかなか良い音。次に買う予定だった DENON のプレーヤを頭の中から消去し、この子を使い続けようと思ったとたんに壊れた。

実質 3 ヶ月も使っていない。サービス期間中だったけれど持ち込み修理というのが気に入らない。結局 DENON に乗り換えて、この子は継続修理となる。つまり、いつも手近に置いて、気が向いたときに手を入れる。

故障の症状は、たとえば 70 分録音された CD なら、40 分くらいまではまったく正常なのに、それ以後、つまり CD 外周部の再生になると音がハデに飛び、ついにはトラックを認識しなくなる。そして困ったことに、カバーをあけるとピタリと治って正常動作。

セオリーでいえば、これは典型的なスライドサーボの問題だろう。ピックアップをスライドさせる棒に異物が固着しているか油が切れているか。ただ、それがカバーの開閉とどう関係あるのかは不明だった。

もっと不思議だったのは、プレーヤ自体を右に 20 度ほど傾けると症状が出ないこと。おいおい、方角があるのかよ。風水だね。

棒の掃除と関係するギアの手入れは、少なくとも 30 回はやった。ついには全部バラしてクリーニングしながら組み立てしてみた。手を入れるたびに、いったんは治ったようにみえても、数時間後には元の木阿弥。相変わらず音とび・異常停止。こんな機材、捨てちまえばいいのに、……いや、意地でも治してやる。

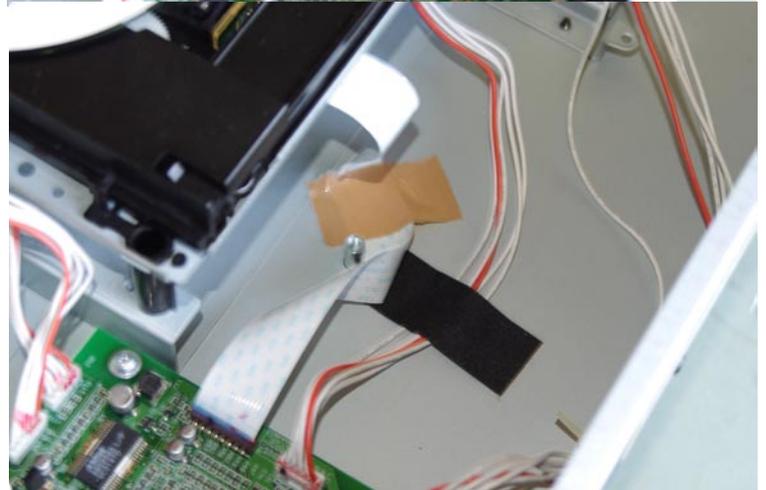
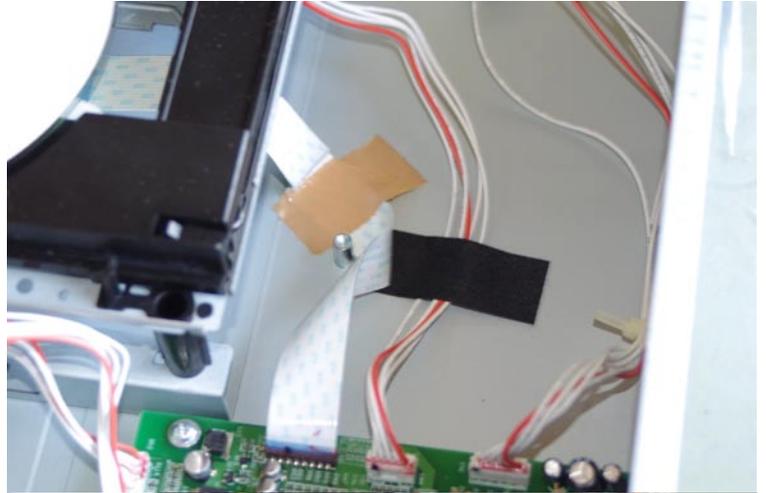
前述の MTR をバラそうかどうか考えていたとき、なんとなく予感がしてこの子のふたを開け、ピックアップを手で動かしてみた。うむ？ 指先にかすかに伝わるクリック状の振動。これなに？

このときに限って症状が強く出たのだろう、ピックアップから基板に行っている白いリボンケーブルがハウジングの下面と擦れているではないか！ ケーブルには直角に曲げるための折り目があって、その尖った先がハウジング下面に引っかかりピックアップの動きを一瞬止めている。誰だ、こんな設計したヤツは！

ピックアップ部からケーブルが出る角度も悪



最内周再生中



最外周再生中

い。下向きに出せば問題ないものを横に出すからひっかかる。20 度右に傾けるとケーブルがハウジングからほんの少し離れる。風水だあ。

解決法はガムテープ 5 センチでケーブルを底板に貼り付けるだけ。ピックアップの動きによってケーブルも移動するから、最内周と最外周、どちらの再生位置でもケーブルに無理がかからない場所を探して、そこにガムテ止める。

Amazon のレビューを見たら、少なくとも 2 人がこのトラブルで泣いていた。そのうち 1 人は TEAC に修理に出し「異常なし」で返却されたようだ。本当に気の毒。これは立派な設計不良による故障であり、上手の手から水が漏れた実例。リボンケーブルをあと 2 センチ長くして、ケースにクランプすれば防げた不具合だ。